

会 議 記 録				
会 議 の 名 称		公共交通対策特別委員会		会議場所 全員協議会室
				担当職員 加藤 太郎
日 時	令和3年7月26日(月曜日)		開 議	午後 1時 30 分
			閉 議	午後 2時 06 分
出席委員	◎三宅 ○奥野 田中 山本 赤坂 齊藤 石野			
執行機関 出席者	【まちづくり推進部】関部長、伊豆田事業担当部長 [桂川・道路交通課]信部課長、鹿島副課長、服部主任			
事務局 出席者	山内事務局長、加藤副課長			
傍聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名(一)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議

[三宅委員長 開議]
[事務局副課長 日程説明]

[まちづくり推進部 入室]

1 3 : 3 2

2 案件

(1) 各地域の取組と課題について

[まちづくり推進部事業担当部長 あいさつ]
[桂川・道路交通課長 説明]

1 3 : 4 5

[質 疑]

<三宅委員長>

いろいろな地域で活動がされており、まとめた資料を提出いただきたい。

<桂川・道路交通課長>

整理して提出する。

<山本委員>

説明を聞くかぎり、無料で実施されているところが多いように感じた。中には無料であることに遠慮があるとの意見もあったが、今まで無料にして運行しているのであれば、実際にはなかなか有料に変えることは難しいと思う。地域の声として、利用される方は、幾らぐらいまでであれば無理なく払える金額であるのか。

<桂川・道路交通課長>

今回の各地域での聞き取りの中では、具体的な料金の確認はできていないが、他市の状況を見ると200円や300円という事例がある。今後、そのことも含めて聞き取りをしていきたい。

<まちづくり推進部事業担当部長>

もともと自家用有償運送以外のこのような運送については、料金を取ると規制が掛

かってくるところがあり、料金を取らずに無料で進められているところがある。しかしながら、持続可能な形でこういった交通を地元が実施していくことになる、一定の料金をいただいて、運転手に報酬を支払っていく形が適切ではないかと考えている。旭町では今月6日から実際に試験運行をされているが、支払える金額について利用される方からアンケートを取りながら、3カ月ほど経過したところで意見交換して、料金や運転手の報酬を決めて、現在の交通空白地の無償運送から自家用有償運送の形に変えていこうという動きが出ている。今までは、交通空白地と福祉有償運送でしか料金をとって運行できなかったが、近畿運輸局と相談する中で、ふるさとバスのように時間の間隔が大変長くて、例えば、旭町であれば午前10時45分のバスが出ると、次のバスが午後2時ぐらいになってしまって、長い時間の空白ができるので、このような時間的な空白についても交通の空白とみなし、その時間を補完する運行であれば、交通空白地の有償運送に変えることができるということで、意見交換させていただいている。幾らかの料金をいただき収入にすることで、持続可能な形での取組として進めていければと考えている。

<齊藤委員>

8年程前になるが、綾部市志賀郷町では、地域の方が自家用車を提供して運転されていたが、200円の料金で志賀郷町内しか運行できていなかった。綾部市内の病院やスーパーなどに行く場合は、NPO法人に切り替えて行かなければならなかったとのことである。先ほどの説明では、時間的空白地ということで、バスの本数が少ないところについては、法律の解釈上、町内でなくても行けるようになったということか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

一定の時間について公共交通が使えない区間を、交通空白地とみなして取組ができることになっている。ただし、それが旭町であればJR千代川駅までは行くことができるが、JR亀岡駅や亀岡市立病院などへは行くことができるのかなど、細部について今後詰めていかなければならない。JR千代川駅まで行けば、電車に乗って亀岡市立病院などの目的地まで行けることになるので、いろいろと調整する部分がある。

<齊藤委員>

近畿運輸局がはっきりとした判断をしているわけではないということか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

交通空白地とみなすことについては了承いただいているが、どこまで運送できるのかについては、枠を大変広くとってしまうのは少しやり過ぎではないかということがあり、その辺りの調整がまだできていない。

<齊藤委員>

行き先については、買い物ならばマツモトなどでよいと思うが、例えば病院についても地域の方で話し合って、どこの病院に行くのかを一定決めた方がよいのではないか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

そのとおりである。旭町ではそういったことや試験運行の反省点などを踏まえて、取組を進められている。宮前町神前で検討されている住民ハイヤーについても、行先を特定されることを考えられている。まだ営業はされていないが、近々開始していきたいと聞いている。

<石野委員>

篠町の西山団地には、亀岡あゆみデイサービスセンターが週2回ほど回っているとの説明であったが、篠町の西山区だけの運行か。

<桂川・道路交通課長>

現在は篠町の西山区の方だけを対象に運行されている。篠町内の他の区からも要望があるようだが、住民からの予約を取り付けたり、その辺の調整をする方が居ないということがあって、実施することが難しいようである。

<石野委員>

西山区の送迎は王子を通ることになる。篠地区のコミュニティバスは合戦野まで来ているが、時間的な制約があってその先の王子までバスを回すことができていないので、時間さえ合えばこれを利用できるのではないか。地域から亀岡あゆみデイサービスセンターに相談してはどうか。

<桂川・道路交通課長>

西山区以外でも、予約の取り付けなどを調整される世話役の方がいれば、対応していただけるかもしれないが、今のところは西山区のみでないと難しいと聞いている状況である。

<赤坂委員>

地域で協力していただいているのは、非常にありがたくてよいことである。前から委員会で言っているが、事業者ベースを一つ任せなければならないところもある。これからもっと高齢化が進んでいって、行きたいときに行けなかったり、緊急のときなどいろいろと支障が出てくると思う。そこでデマンド交通でベースのものを作る必要があるのではないか。石野委員からあったような、ついでに乗せてもらうことも難しい面があると思う。行きたい目的地が人によって違うこともあり、いろいろな問題が出てくるので、ベースのものを作っておくべきではないか。

<桂川・道路交通課長>

デマンドタクシーの件は、昨年度、タクシー事業者から見積もりを提出いただいたが、今のバス交通と比べて経費的に高くつく結果が出ており、各自治会の意見や各地域の実情を十分に分析して、慎重に検討する必要があると感じている。

<赤坂委員>

経費が高くつくということであるが、事業者からは、見積もりを提出してから細かい話をしていないと聞いている。もっと協議をして進めていくべきである。

<桂川・道路交通課長>

バスの実績の金額と比べて、お一人を運ぶ金額が高いといった結果であったが、見積もりの中で、この内容は下げていただきたいなどの協議は、今後していく必要があると感じている。

<赤坂委員>

ボランティアの方はもっと増えてくると思うし、そういった地域主体型交通もよいが、ボランティアの方も高齢化してくることなども今から想定する中で、要望でもあるが、デマンド交通について実施しやすい地域から前向きに検討していただきたい。

<まちづくり推進部事業担当部長>

旭町では、これまで考えてこられた地域主体型交通の取組がようやく実現した。自治会長からは、バスだけに頼ることなく、自分たち住民で共助する持続可能なシステム・サイクルを作りたかったと聞いている。また、宮前町神前で進められている住民ハイヤーの関係では、運転手が顔なじみで安心できることも一つの条件である

とのことである。地元の中で助け合えるシステムを確立していくことを進めていければとの思いで、地域に入っているのが現実的なところである。しかし一方では、運転手が高齢化していくなどの問題も出てくると思うので、タクシー事業者のプロの運転手の活用も検討しながら、うまく組み合わせていく必要があると思う。

<三宅委員長>

様々な地域で取組があることはよいことである。しかしながら、事故が起こらない前提としてはよいと思うが、事故が起こったときの対応を考えると気になるものがある。そのことも含めてとなるが、2年前に意見交換した京都タクシー株式会社の方に次回の委員会にお越しいただき、タクシー事業者としてデマンド交通などいろいろと考えておられることを聞いて、意見交換したいと思う。地域主体型交通については、これから高齢化していく地域の皆さんの運用状況を考えると、難しい面も出てくるのではないか。プロの方の運用システムも大事になってくると思う。今日は地域の状況や取組、課題などについて担当部から説明していただいたが、次回、8月25日に開催する委員会にも出席いただき、地域の交通について事業者、市、議会の3者で意見交換したいので、よろしくお願いしたい。

[まちづくり推進部 退室]

14:03

3 その他

[事務局副課長 次回日程説明]

<三宅委員長>

次回の委員会は、8月25日（水）午後1時30分から、京都タクシー株式会社を迎えて、地域の交通について意見交換する。市の出席もあるので、ぜひ活発で前向きな意見を出していただき、亀岡市でできることを模索していきたいと思う。

散会 14:06